

Number 05

偶然性の問題

私たちは、テクノロジーがつねに完璧であることを求める。たとえば、原子力発電の安全はもとより、クルマ、インターネット、家電製品など、ちよつとした不備やささいな不便さまでも徹底的に改善されることが当然とされる。このことは、そろそろ成熟期を迎えつつあるデジタルカメラにもあてはまる。

私がデジタル一眼レフカメラを常用するようになって約二年ほどたつ。最初のうちは、ハッセルブラッド時代に愛用していたカール・ツァイス社製のレンズをアダプターを介して使用していた。それはさすがに対象を立体的に、また意味深く描写するのだが、色収差など、銀塩フィルム時代にはほとんど気にならなかったレンズの不備が気になり、最近ではデジタルカメラ専用に設計されたレンズを使うようになった。それでも、まれにフ

レアーやゴーストなどの不備が出ることもある。しかし、それがなぜか面白いのである。

本居宣長の『古事記伝』を通じて古代世界に興味を持ち、現存する最古の大社造の社殿を持つ出雲地方の神魂神社を参拝したときもレンズはデジタル専用だった。もちろん、天気の良いもあるのだが、フレアーやゴーストがこの神社の撮影に限って不思議なほど多発したのである。

確かに、この写真を見れば、どのようにしてこのようなゴーストが出現したのかは、科学的かつ整合的に説明でき、ならぬ神秘現象ではありえない。だが、なぜ、へたましいのようと思われる赤い光が、この瞬間、この場所に出現したのかは（九鬼周造が『偶然性の問題』の「離接的偶然」で展開しているように）まさに偶然の深い「独立した二元の邂逅」としかいいようがないように思われる。





くろさき・まさお

1954年仙台市生まれ。
東京女子大学文理学部哲学科教授。
専門はカント。東京大学文学部哲学科卒、
同大学院哲学博士課程修了。
パソコン、人工知能、モード、
電子メディア論、生命倫理、
複雑系など幅広い関心をもつ。
著書に『哲学者はアンドロイドの夢を見たか』
『デジタルを哲学する』など多数。
現在、NHK教育テレビ「サイエンスZERO」に
レギュラー コメンテーターとして出演中。

2004©Masao Kurosaki
神魂神社の境内にて